大学基準５．学生の受け入れ

中期目標

【目標１】学生の受け入れ方針を明示し、教育目標や学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づいた人材育成の成果と比較・検証することで、これを適切に維持する。

【目標２】適切な定員を設定して学生を受け入れるとともに、過去５年間の入学定員に対する入学者数比率の平均並びに、収容定員に対する在籍学生比率の平均を 1.00 とする。

（１）広報入試委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1]　当該学科に入学するにあたり、求める学生像及び修得しておくべき知識等を事前に明示する。 [1-2]　それぞれの入試制度に基づいた選抜方法を明示するとともに、選考方法、出題内容、合否判定が適切かどうかを検証し、適正化を図る。 [1-3]　それぞれの入試制度並びに成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当した入学生の学修成果について検証・評価する。	[1-1,1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①各奨学金対象者調査 ②各奨学金対象者調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率 ⑦成績優秀者奨学金該当者等成績一覧

	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
2018年度	[1-1]　高大接続システム改革に伴い、新たに策定されたアドミッションポリシーについて、受験生や高校へ十分周知すると共に、今後は全ての入試制度においても、アドミッションポリシーを踏まえた入試評価を前提とする。	[1-1]　新たに策定されたアドミッションポリシーについて、ＨＰ、入試ガイド等で受験生や高校へ十分に周知を図った。	[1-1]　新たに策定されたアドミッションポリシーについて、ＨＰ、入試ガイド等で受験生や高校へ十分に周知を図った。
	[1-2]　募集定員、入試制度、選考方法等について、入試ガイド、ＡＯガイド、ＨＰ、入試要項等に明示するほか、入学後の成績・学籍状況を調査し、それぞれの制度における選考方法と合否判定が適切か検証・評価する。特に、新しく導入したスカラシップ入試制度については、出願者および入学者の層を見つつ、合格レベルについても今後検証・評価を続ける。	[1-2]　募集定員、入試制度、選抜方法等について、入試ガイド、ＡＯガイド、ＨＰ、入試要項等に明示すると共に、入学後の成績・学籍状況（入試種別ごと卒業率、就職率、中退率等）を調査し、それぞれの制度における判定が適切かどうか関係部署と連携し検証・評価した。昨年度より導入したスカラシップ制度についても、引き続き得点率の妥当性等検証する。	[1-2]　募集定員、入試制度、選抜方法等について、入試ガイド、ＡＯガイド、ＨＰ、入試要項等に明示すると共に、入学後の成績・学籍状況（入試種別ごと卒業率、就職率、中退率等）を調査し、それぞれの制度における判定が適切かどうか関係部署と連携し検証・評価した。昨年度より導入したスカラシップ制度の得点率の妥当性や、成績優秀者奨学金制度（推薦入試）との兼ね合いも併せて引き続き検証する。
	[1-3]　成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生の学修状況・成果の把握を引き続き可視化し、担当部署および担当教員とで共有する。また、上記スカラシップ特待生についても同様とする。	[1-3]　成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生に対して、「奨学生状況経過報告書」を提出させ学修状況・成果の把握について、可視化し、担当部署および担当教員とで共有する。また、上記スカラシップ特待生についても同様とする。	[1-3]　成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生に対して、「奨学生状況経過報告書」を提出させ学修状況・成果の把握について、可視化し、担当部署および担当教員とで共有する。また、上記スカラシップ特待生についても同様とする。

	年次計画内容
2019年度	[1-1]　アドミッションセンターにて、アドミッションポリシーの見直しをし、受験生や高校へ十分周知すると共に、全ての入試制度において、アドミッションポリシーを踏まえた入試評価を前提とする。
	[1-2]　募集定員、入試制度、選考方法等について、入試ガイド、ＡＯガイド、ＨＰ、入試要項等に明示するほか、入学後の成績・学籍状況を調査し、それぞれの制度における選考方法と合否判定が適切か検証・評価する。特に、スカラシップ入試制度については、出願者および入学者の層を見つつ、合格レベルについても今後検証・評価を続ける。
	[1-3]　成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生の学修状況・成果の把握を引き続き可視化し、担当部署および担当教員と共有する。また、上記スカラシップ特待生についても同様とする。

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）	達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適正化を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の未充足に対する対策を検討する。 [2-3]　各学部の合否基準を明確にし、一定の学力・意欲・適応力のレベルを保ちつつ、偏差値を意識しながら、中期的に安定した定員充足が出来るような学生募集方法を検討し、その成果を検証する。	[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率 [2-3] ①合格最低点、得点率、手続者数一覧 ②年度別入学者の平均点一覧 ③年度別休退除籍者数一覧 ④各学科修学指導対象者一覧

	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
2018年度	[2-1]　2019 年度は入学定員確保、2020 年度以降も入学定員を確保し、大学としての収容定員充足率 100%を目標として、様々な入試広報活動を推進し、検証・評価する。	[2-1]　昨年年度までの 3 年間で安定的な定員が確保出来るよう入試広報活動を推進してきた。特に今年度は心理学部開設の年度であったため昨年度から引き続き心理学部広報および本学知名度 UP に向けて広報を強化した。また、スカラシップ入試 2 年目と	[2-1]　2019 年度は入学定員確保を目標としてすすめてきた。昨年度に引き続き、心理学部開設およびスカラシップ制度の導入を全面に出し入試広報活動を推進した結果 732 名と昨年度よりさらに増加とはなったが、入学定員確保とまではいかなかった。

		いう事で、こちらの周知も徹底し、進学雑誌に初めて偏差値等掲載された。	定員充足率も 92.1%と上昇した。
	[2-2] ①オープンキャンパスの参加者数の増加及び目的意識の高い参加者のリピート率をあげるための広報及び企画の充実を図る。 ②大学進学セミナーの参加者数の増加及び本学オープンキャンパスと併せて参加させるための広報及び企画の充実を図る。 ③大学案内、入試ガイド、支援力レポート、ＨＰなど、大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携し、高校生に見てもらえ、そして本学を選ぶ決め手の一つとなるよう製作する。 ④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、学生募集プロジェクトメンバー及び広報入試委員と連携して、可能な限り参加する。但し、他の業務（高校訪問等）と抱き合わせにするなど、予算削減を心がける。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問を引き続き強化する。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等を紹介するため、引き続きサイトを充実させ、申込数の増加を図る。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を見つつ広報媒体を見直す。	[2-2] ①オープンキャンパスの参加者数の増加及び目的意識の高い参加者のリピート率をあげるための広報及び企画の充実を図った。特に参加者の質の向上、保護者の獲得を重点的に実施。結果、合計人数としても微増。特に保護者の参加者数は大幅に増えた（過去 10 年間で最多）。 ②大学進学セミナーの参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図り、会場によっては純粋な参加者を増加させることが出来た。しかし、北海道胆振東部地震の影響で、2 会場実施できなかったことから、全体参加数としての比較は来年度へ持ち越しとなった。また、今年度は大学進学セミナーの会場として設定されていない、入試の地方会場において、試験的にイベントを実施。具体的には、室蘭、盛岡において、「心理学ミニ講話と進学相談会」と称して、高校生対象のイベントを開催。参加者数としては多くないものの、その後の出願に確実に繋がった事を確認できる結果となった。 ③今年度開設した心理学部を前面に出し、さまざまな広報を展開した。結果、心理学部だけではなく札幌学院大学自体の知名度も上がったように思われる。また、2 年後に拠点展開する新さっぽろ地区でのイベント・広報を強化した。 ④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、職員学生募集プロジェクトメンバー及び広報入試委員と連携して、可能な限り参加した。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問を強化した。昨年に引き続き沖縄地区出願者獲得へ向け、校内ガイダンスの参加を実施した。結果、推薦入試において 1 名の指定校出願があった。沖縄地区開拓に向けては引き続き計画的に実施したい。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等のメニューを紹介するサイトも充実させ、申込数は昨年に引き続き上昇し、昨年比 1.5 倍となった。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を見ながら各業者の広報媒体を見直した。	[2-2] ①オープンキャンパスの参加者数を増加させ、目的意識の高い参加者を募るための広報及び企画の充実を図ってきた。今後は参加人数だけではなく、参加者の質の向上、保護者の満足度を高めるよう、更なる企画等の充実を図りたい。 ②大学進学セミナーの参加者数を増加させ、目的意識の高い参加者を募るための広報及び企画の充実を図ってきた。これまでは地方 6 会場で実施しており、一般入試における地方会場と照らし合わせた際、室蘭と盛岡では大学進学セミナーは実施しておらず、一般入試における出願も芳しくない状況が続いていた。そのため、今年度は試行的に、上記 2 会場において、心理学部開設と称し進学相談会を開催した。参加人数は多くなかったものの、参加した高校生が実際の出願、手続へと繋がった（スカラ入試）。このことを踏まえ来年度は、上記 2 会場で大学進学セミナーを実施する。 ③今年度開設した心理学部を前面に出し、さまざまな広報を展開した。結果、心理学部だけではなく札幌学院大学自体の知名度も上がったように思われる。今後は拠点展開する新さっぽろキャンパスの広報や新さっぽろ地区でのイベント・広報をさらに強化する。 ④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、職員学生募集プロジェクトメンバー及び広報入試委員と連携して、可能な限り参加した。近年、予算が削減される中、業者主催の相談会等は増加傾向。参加に関してはさらなる吟味が必要となる。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問を強化した。昨年に引き続き沖縄地区出願者獲得へ向け、校内ガイダンスの参加を中心に実施したい。また、沖縄地区特有の経済事情を汲んだ奨学金セミナーが開催されており、そこへ大学ブースとして試行的に参加した。これについても継続的に参加し検証していきたい。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説　明等のメニューを紹介するサイトも充実させ、申込数は昨年に引き続き上昇し、昨年比 1.5 倍となった。幅広い周知や申込数の増も重要だが、高大連携の本来の意味も考えつつ今後も進めていきたい。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を検証し、年度途中であっても広告媒体の見直しを図りつつ進めている。
	[2-3] ①全ての入試制度において、高大接続システム改革に向けて、「高大接続改革対策検討委員会」にて、引き続き検討する。 ②インターネット出願の利便性、経済性について引き続き検討すると共に、引き続き広報を強化する。	[2-3] ①全ての入試制度において、高大接続システム改革を視野にいれ、見直しの検討を高大接続改革対策検討委員会にて実施。結果、8/1 付けにて基本方針を発表。2019 年 4 月末にはさらなる詳細を発表する予定。 ②インターネット出願の利便性、経済性について引き続き検討し、広報を強化した。昨年度よりスカラシップ制度導入もあり、受験料試算においても利便性を強く広報した。今年度は、予算の関係からもインターネット出願業者を見直し、新たな業者に変更。インターネット出願 5 年目となる今年度のネット出願率は一般・センター共に過去最高となった。	[2-3] ①全ての入試制度において、高大接続システム改革を視野にいれ、見直しの検討を高大接続改革対策検討委員会にて実施。基本方針、さらなる詳細について藻も発表済み。今後は 4 月に制定されるアドミッションセンターを筆頭に、他の内容についても検討をすすめる。 ②インターネット出願の利便性、経済性について引き続き検討し、広報を強化した。昨年度よりスカラシップ制度導入もあり、受験料試算においても利便性を強く広報した。2 年後の入試改革に併せてオールネット出願を計画し、対応業者と調整しつつ進めていく予定。

2019年度	年次計画内容
	[2-1]　札幌学院大学中期計画で定めた、獲得目標である 710 名に向けて、アドミッションセンターにて、様々な入試広報活動を推進し、検証・評価する。
	[2-2] ①オープンキャンパスの参加者数の増加及び目的意識の高い参加者のリピート率をあげるための広報及び企画の充実を図る。 ②大学進学セミナーの参加者数の増加及び本学オープンキャンパスと併せて参加させるための広報及び企画の充実を図る。 ③大学案内、入試ガイド、支援力レポート、ＨＰなど、大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携し、高校生に見てもらえ、そして本学を選ぶ決め手の一つとなるよう製作する。 ④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、学生募集プロジェクトメンバー及び広報入試委員と連携して、可能な限り参加する。なお、他の業務（高校訪問等）と連携し、さらなる予算削減を心がける。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、東北地区における訪問を引き続き強化する。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等を紹介するため、引き続きサイトを充実させ、申込数の増加を図る。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を鑑み広告媒体を見直す。
	[2-3] ①2021 年度以降の大学入学者選抜試験について、学力の３要素を評価すべく、さらなる詳細を詰め、早い段階で高校生、高校教員、保護者へ周知する。また、新さっぽろキャンパス展開も併せて周知する。 ②インターネット出願の利便性、経済性について引き続き検討すると共に、今後、全入試制度への拡大についても引き続き検討する。

（２）アクセシビリティ推進委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1]①入試要項、ホームページでの公開 [1-2]①GPA　②進路決定状況（業種別等を含む）③資格等取得状況　④学位授与率・４年間卒業率
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」をホームページ上で示すとともに、その適正な運用に努める。	[1-1]　基本方針については、本学ホームページ上で公開している。	[1-1]　資料：本学ホームページ「障がい学生支援」
	[1-2]　障がいのある学生の学業成績（GPA、資格取得状況など）の情報を把握し、必要に応じて関係各所との協力により支援体制を確保する。	[1-2] 成績確定後（前期・後期の２回）に、アクセシビリティ推進委員会の会議において、障がいのある学生の学業成績（GPA、単位修得状況）の情報を確認し、関係各所と状況を共有するとともに、必要な支援を行った。 また、１年生とは前期・後期に振り返り面談を実施し、改善等が必要な事柄について確認を行った。	[1-2] ①GPA　②進路決定状況 資料：障がい学生・支援学生修学状況および就職状況について （第 13 回アクセシビリティ推進委員会回収資料） GPA3.0 以上 14 名・就職 10 名・就労支援 5 名・就活中 2 名・大学院進学１名）
2019年度	年次計画内容		
	[1-1]　「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」をホームページ上で示すとともに、その適正な運用に努める。		
	[1-2]　障がいのある学生の学業成績（GPA、資格取得状況など）の情報を把握し、必要に応じて関係各所との協力により支援体制を確保する。		

（３）経営学部

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を入試要項、ホームページなどで明示する。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。その際、単位取得、GPA、進路決定状況など具体的な数値よって検証する。			[1-1,1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　経営学部としてもとめる学生像および修得しておくべき知識等の内容・水準を明示すると共に、社会科学系学部再編に向けた検討を進める。	求める学生像および修得すべき知識等については大学のホームページを通じて明示した。学部再編については全学的に、また経済学部と共に会議を開催しながら検討を進めている。	公開を行なった。学部再編の検討は進行中である。
	[1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。	示すことが出来なかった。	公開することが出来なかった。
	[1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長について検証する。	教務委員会において検証を行なった。	学科ごと、専攻ごと、ゼミごとに個別に指導できるデータを提供した。

５．学生の受入れ

2019年度	年次計画内容
	[1-1] 新学部新経営学科の求める学生像および修得しておくべき知識等の内容・水準を検討するとともに、それを明示する作業に進む。
	[1-2] 受け入れた障がいのある学生について、適切な対応がとられているか検証する。
	[1-3] 引き続き、学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長について検証する。

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関して、会計ファイナンス学科の定員を 2014 年度から削減したが、さらに経営学科も含め大学執行部、理事会などと連携をとりながら対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性について引き続き検証を行なう。	前年度に引き続き、教務委員会において検証を行っている。	目標は達成できていないが今後改善を図っていく。
	[2-2] 社会科学系学部再編に伴う定員についての検討を行う。	全学的に、また経済学部と共に実行案の検討を行っている。	検討は進行しているが、結論に至るまで取り組んでいく。
2019年度	年次計画内容		
	[2-1] 社会科学系学部再編に伴い、収容定員に対する在籍学生比率の適切性について一定の結論を出す。経営学科一学科体制とし、150 名定員の適切性について検討する。(学部定員 20 名減)		
	[2-2] 届け出申請が通った後は、定員充足を図るための新たな広報入試活動の準備に入る。		

（４）経済学部

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1] 求める学生像および、経済学部の教育内容を明示する。 [1-2] 学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を検証する。 [1-3] ＡＯ入試や推薦入学入試制度の検証を継続し、入試手段別に入学者学生の現況を把握する。 [1-4] 指定高校などの高大連携を図り、初年次学生の基礎力の担保を推進する。			[1-1]①入試要項、ホームページでの公開 [1-2]①修学ポートフォリオ提出状況 [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率 [1-4]①高校巡回実施状況
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 様々な教育内容を紹介するため、経済学部ホームページに新着記事を昨年度並みに掲載する。	大学ホームページのリニューアルに合わせその時点で最新の情報が掲載できるように努めた。	概ね左記の目的を達成できた。
	[1-2] 1)修学ポートフォリオの項目を検討するとともに、学生自身で成長を確認させる。 2)ポートフォリオを用いた学生一人ひとりの修学指導の方法を検討する。	1)書式を改めた修学ポートフォリオを、1 年次前期・後期の学期、2 年次に実施した。3 年次にも導入すべく準備した。 2)担当教員に指導を委ねているのが現状で、ポートフォリオを用いた修学指導の方法については検討に至っていない。	学生の成長を支援する施策は実施しているが、受け入れた学生一人ひとりの成長を検証する方法の確立には至っていない。
	[1-3] 入試手段別の成績および学籍異動を分析し、入学者の今後の動向の注意点を探る。	入試手段別の成績および学籍移動の基礎資料は作成しているが、分析には至っていない。	入試手段別に学生の状況をしっかり捉えるところまでは至っていない。
	[1-4] 1)入学前学習の状況を高校に説明する。 2)高校巡回において在学生の状況を一人ひとり説明できるよう、昨年度以上に情報を共有する。	1)入学前学習の内容、結果は、高校巡回で逐次説明を行なった。 2)在学生の状況を把握するため、はぐくみへの記入を促した。	指定高校などの高大連携は具体的には検討していない。しかし、初年次学生の基礎力の担保を推進するよう、努めた。
2019年度	年次計画内容		
	[1-1] 様々な教育内容を紹介するため、経済学部ホームページに新着記事を昨年度並みに掲載する。		
	[1-2] 1)修学ポートフォリオの項目を検討するとともに、学生自身で成長を確認させる。 2)ポートフォリオを用いた学生一人ひとりの修学指導の方法を検討する。		
	[1-3] 入試手段別の成績および学籍異動を分析し、入学者の今後の動向の注意点を探る。		
	[1-4] 1)入学前学習の有効な在り方について検討する。 2)高校巡回において在学生の状況を一人ひとり説明できるよう、昨年度以上に情報を共有する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する検討を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 定員の確保に努力する。過去 5 年間の入試手段別の定員充足率を	巡回時のスカラシップの紹介、就職実績のアピールは積極的に行ってきたが、入試	①入学定員充足率は 110.6%で定員を確保することができた。今後も入学定員確保を目指し

	元に、重点化すべき入試対策を検討する。	政策の検討は、学内再編や高大接続との絡みあり、十分にはなしえなかった。	たい。 ②収容定員充足率も 77.7%となっていて昨年度を上回る結果となった。入学定員充足率を上げることによりさらに高くなるよう努めたい。
	[2-2]　入試制度の検討を昨年度に続き行う。	入試科目の整理、作問体制の見直しなどが全学的に進んでいるので学部としての対応を図った。	全学レベルの改革にも資するよう学部としての方針を明確に打ち出せるように努めたい。
2019年度	年次計画内容		
	[2-1]　定員の確保に努力する。過去 5 年間の入試手段別の定員充足率を元に、重点化すべき入試対策を検討する。		
	[2-2]　入試制度の検討を昨年度に続き行う。		

（５）人文学部人間科学科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2]　アクセシビリティ推進委員会との連携のもとに障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1,1-2 共通] 入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①学修行動調査 ②学生満足度調査の活用 ③卒業生満足度調査の活用 ④入学年度別 GPA 分布・推移 ⑤進路決定状況（業種別等を含む） ⑦資格等取得状況 ⑦入学年度別学位授与率
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] もとめる学生像および入学するにあたり修得しておくべき知識等については、入試ガイド、AO ガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知する。	[1-1] もとめる学生像および入学するにあたり修得しておくべき知識等については、入試ガイド、AO ガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知した。	学科教員による出張講義を 4 回実施した。進学相談会は 5 回、校内ガイダンスおよび地方で実施された大学進学セミナーに入試委員および学科教員で対応した。2019 年度入試にかかる 5 回のオープンキャンパスにおける対応件数（希望学科として本学科を選んだ件数）は 160 件であった。また、今年度は本学科入学生の多い16校の高校について学科教員で訪問し、学科の教育内容について説明を行った。
	[1-2] 学科としての障がいのある学生の受け入れ方針とその示し方は、「札幌学院大学　障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」及びアクセシビリティ推進委員会によるホームページ、パンフレット等にしたがって行う。	「札幌学院大学　障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」及びアクセシビリティ推進委員会によるホームページ、パンフレット等にしたがって実施した。 2018 年度は、聴覚障がいの学生 2 名のほか何らかの配慮を要する学生 6 名が入学し、アクセシビリティ推進委員会・担任教員・教育支援課担当職員等の連携のもとに、入学前と入学後の対応を適切に実施した。	[1-2] アクセシビリティ推進委員会による大学としての受け入れ方針をホームページで公開している。 本学 HP 掲載内容
	[1-3] 昨年度に引き続いて、GPA での成績分布の学年別差異や特徴について検討を進めていく。	[1-3] 2015～2018 年度入学生の成績分布の推移では、学年進行とともに GPA にバラツキが生じ、平均値が下がる傾向がある。	[1-3] 2015 年～2016 年度入学生と同様、2018 年度入学生の GPA 成績分布にも二極分化の傾向がみられる。全学年にこうした傾向がみられることを踏まえた今後の対策を検討する必要がある。 【指標「人文学部入学年度別 GPA 推移【2018 年度】および人文学部入学年度別　2018 年度 GPA 分布図】
2019年度	年次計画内容		
	[1-1] 2020 年度より学科新カリキュラムがスタートするため、もとめる学生像および入学するにあたり修得しておくべき知識等については 2018 年度中に内容を改定した。その新たなアドミッションポリシーを入試ガイド、AO ガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知する。		
	[1-2] 学科としての障がいのある学生の受け入れ方針とその示し方は、「札幌学院大学　障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」及びアクセシビリティ推進委員会によるホームページ、パンフレット等にしたがって行う。		
	[1-3]昨年度に引き続いて、GPA での成績分布の学年別差異や特徴について検討を進めていく。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の動向を把握する。	[2-1] 収容定員 520 人（130 人×4 学年）に対して、2014 年度から 2018 年度までの在籍学生比率を把握した。	[2-1] 2014 年度から 2018 年度までの収容定員充足率（②）の推移は、0.86、0.76、0.65、0.58、0.60。
	[2-2] 定員確保を目標とする。入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学	[2-2] 定員確保を目標として、広報・入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学進学セミナー	[2-2] 目標の達成にはいたらなかった。2014 年からの 2018 年度まで

	進学セミナーを通じて、人間科学科での学びの魅力を伝える。また、在学生とも連携しオープンキャンパスにおけるミニ講義などの学科企画等を通じて、人間科学科での学びの魅力を伝える。	を通じて、学科カリキュラムの魅力を伝える。また、オープンキャンパスにおけるミニ講義等を通じて、学科カリキュラムの魅力を積極的に伝えた。また 2020 年度より学科新カリキュラムがスタートするのにともない、2020 年度受験生向けに新カリキュラムによる学びの概要についてオープンキャンパスで説明を行った。	の入学定員充足率（①）の推移は、0.65、0.56、0.52、0.68、0.61。
2019年度	年次計画内容		
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の動向を把握する。		
	[2-2] 定員確保を目標とする。入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学進学セミナーを通じて、人間科学科での学びの魅力を伝える。また、在学生とも連携しオープンキャンパスにおけるミニ講義などの学科企画等を通じて、人間科学科での学びの魅力を伝える。加えてホームページ等でも学科教育内容を積極的に発信する。		

（６）人文学部英語英米文学科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1] 求める学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2] 学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1] 入試要項、ホームページでの公開 [1-2] ①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況（業種別等を含む） ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・４年間卒業率
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] アドミッション・ポリシーの周知をさらに徹底する。具体的には、オープンキャンパス・出張講義・進学相談会・高校訪問などの場を活用する。	５回実施されるオープンキャンパスの学科説明会や個別相談会、学外での進学相談会や校内ガイダンスにて、アドミッション・ポリシーの周知を徹底した。英語関連の出張講義やミニ講義でも、部分的にアドミッション・ポリシーに言及するなどの工夫も行なった。	入試要項、ホームページでの公開を行なった。 【指標「大学ウェブサイト」】
	[1-2] ４年生に関して、その成長を GPA の推移や資格取得状況などのデータから可視化するとともに、学生の成長を支援する仕組みについての検討を継続して行う。	今年度卒業する 2015 年度入学生の GPA は、１年次 2.09、２年次 2.20、３年次 2.36、４年次 2.36 と伸びており、４年間の成長が明らかとなった。一方、2016 年度入学生と 2017 年度入学生は、１年次から２年次にかけて GPA が落ち込んでいる。このような学年による差が生まれる原因について、今後検証を続けたい。	次年度も４年生に関して、その成長と GPA の推移や資格取得状況などのデータに基づき、学生の成長を支援するための仕組みについて検証を行う。 【指標 「2018 年度人文学部入学年度別 GPA 推移」】
2019年度	年次計画内容		
	[1-1] アドミッション・ポリシーの周知をさらに徹底する。具体的には、オープンキャンパス・出張講義・進学相談会・高校訪問などの場を活用する。		
	[1-2] ４年生に関して、その成長を GPA の推移や資格取得状況などのデータから可視化するとともに、学生の成長を支援する仕組みについての検討を継続して行う。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。 [2-3] 魅力的な対外広報を行なう。			[2-1] ② 入学定員充足率 ① 収容定員充足率 [2-2] オープンキャンパス・大学相談会参加状況 [2-3] ホームページ・ブログ・入試課で行なうアンケート
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 過去 5 年間（2014 年度から 2018 年度入試）の収容定員に対する在学生比率を算出する。	在学生比率は近年回復傾向にあるが、さらに 2018 年度入試での入学者が 62 名と定員を大幅に超えたため、4 学年全体の収容定員に対する在学生比率も 1.0 を上回った。具体的には、在学生比率は昨年度の 0.99（4/21 時点）から 1.01（4/20 時点）に改善した。	算出は行なった。次年度も継続するとともに、定員充足率の上昇・維持に向け、より魅力的な広報の策を練る必要がある。 【指標②】 【指標「2017 年度第 2 回英語英米文学科会議資料」】 【指標「2018 年度第 2 回英語英米文学科会議資料」】
	[2-2] 過去 5 年間を見る限り、本学科が定員を超えたのは 2014 年度と 2018 年度であり、定員未充足の状態にやや改善の兆しが見える。2019 年度入試でも定員を確保すべく、高校訪問等で高校教員に、オープンキャンパスや進学相談会等で高校生や保護者に、本学科の魅力や雰囲気の良さをアピールする。	進路指導部訪問だけでなく、本学科の OB・OG 教員や知人教員を訪問し、高校教員へのアピールに努めた。オープンキャンパスでは学科のアドミッション・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを説明し、かつ、高校生にも理解できる難易度で本学科の学びを体験してもらうコンテンツを用意した。進学相談会や校内ガイダンス等も可能な限り入試委員が参加し、高校生へのアピールに努めた。	進学相談会・校内ガイダンスで英語英米文学科への相談者数は、2017 年度は 253 人（全 188 回）に対し、2018 年度は 219 人（全 211 回）とやや減少した。また、全 5 回開催（前年度 3 月から今年度 12 月まで）のオープンキャンパスの来場者で本学科に興味を示した合計人数は、2017 年度は 138 名に対し、2018 年度は 136 名とほぼ同数だった。新学部開設、新キャンパス展開、スカラシップ特待生制度などの明るい話題の効果が継続しているのか、高校生や保護者の反応はよかった。

			【指標「2017 年度進学相談会・校内ガイダンス集計表」】 【指標「2018 年度進学相談会・校内ガイダンス集計表」】 【指標「2018 年度オープンキャンパス参加者数集計表」】
	[2-3]　今年度にリニューアルされた大学ホームページにおいて、前年度までの学科ホームページの内容がどのように継承されているかを検証し、その中での情報発信方法を検討する。	リニューアルされた大学ホームページを活用し、学科の教育内容と魅力をアピールする方策を学科運営会議で議論した。その結果、学科の情報の更新については、より入試業務と連携すべく校務分掌を工夫することとなった。	リニューアルされた大学ホームページにおける情報発信方法を検証することができた。次年度も同様の検証を継続する。 【指標「大学ホームページ」「英語英米文学科お知らせのページ】
2019 年度	年次計画内容		
	[2-1]　過去 5 年間（2015 年度から 2019 年度入試）の収容定員に対する在学生比率を算出する。		
	[2-2]　過去 5 年間を見る限り、本学科が定員を超えたのは 2018 年度と 2019 年度であり、定員未充足の状態から改善が見られる。2020 年度入試でも定員を確保すべく、高校訪問等で高校教員に、オープンキャンパスや進学相談会等で高校生や保護者に、本学科の魅力や雰囲気の良さをアピールする。		
	[2-3]　本学科をアピールする方策として、大学ホームページによる発信を継続して行う。		

（７）人文学部こども発達学科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　こども発達学科がもとめる学生像、当該課程に入学するにあたり修得しておくべき知識等について、その内容・水準等を明示する。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す [1-3]　修学において支援を要する学生への措置を適切に行う。 [1-4]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長過程を、当該学生の学修成果を基に検証・共有化する。			[1-1、1-2、1-3 共通] ①入試要項、入試関連の広報媒体、ホームページ ②高校訪問・OP・進学相談会等での実績 ③入学前学習 [1-4] ①学生生活満足度調査 ②卒業予定者への調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤教員・保育士採用等の採用状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率 ⑥「はぐくみ」の利用
2018 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] こども発達学科がもとめる学生像や入学後必要な知識の内容･水準を各種媒体を通じて受験生に明示し､入学予定者に対しては入学前学習を適宜課す。	「入学案内」などの各種媒体を通して学科の受け入れ方針および事前に習得すべき知識の内容を広報し、修学に支援を要する学生の受け入れ対策について学科会議で議論した。受け入れた学生については、学科 FD や会議などで成長過程上の問題点や改善点を議論して共有し、指導に生かしていった。	対処を 3/3 実施。検証を 1/2 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D5-1:入学生への内容・水準等を明示】 【指標「入学案内」】 【指標②】 【指標「推薦,ＡＯ入学者入学前学習指導」】
	[1-2]　障害のある学生の受け入れに際しては､アクセシビリティ推進委員会と連携しながら環境整備を進める。	障がいのある新入生に対して、アクセシビリティ推進委員会と学科関係者が連携しながら修学上必要な配慮や要望等について確認した。これについて学科会議で報告し、学科全教職員で共有した。また、学科会議において、聴覚に障がいのある学生に対する支援として映像教材への字幕挿入サービスなどについて確認し､修学上の留意点や準備すべき事項について全教員に周知した。	対処を 3/3 実施。検証を 2/2 を実施。達成 1/1 を実施。 指標「計画表」D5-1:障がいのある学生の受け入れ方針】 【指標「入学案内」※現物提出】 【指標②高校訪問・OP・進学相談会での実績】 【指標③入学前学習の効果の評価】 【根拠資料「誰でもできる情報保障のコツ～一歩進んだサポートをするために」】 【根拠資料「聴覚障がいのある受験生のためのガイドブック」】 【根拠資料「映像教材への字幕挿入サービスのご案内」】
	[1-3]　修学において支援を要する学生に対しては､学科内で情報を共有するとともに適宜関係部署と連携しながら､留学生など多様な学生への修学支援の内容を考えていく。	修学上支援を必要とする学生に対しては、主として担当教員が個人面談を重ねていた。毎月の学科会議で面談の経過などの情報を共有しながら修学支援を行った。 在籍する軽度難聴学生について、関係部署と連携し、本人の確認を得て、学期開始時に授業担当者宛に配慮のお願い文書を配布した。また、科目ごとに聴き取りに差があるため、パソコンテイクなどの支援学生の必要性の可否について確認を行い関係部署との情報共有を図った。 在籍する場面緘黙学生についても、関係部署との連携を図って修学支援を実施してきたが、今年度保育実習ＩＡ・ＩＢ を無事に	対処を 2/3 実施。検証を 1/2 を実施。達成 1/1 を実施。 指標「計画表」D5-1:支援を要する学生への措置】 【指標「入学案内」※現物提出】 【指標②高校訪問・OP・進学相談会での実績】 【指標③入学前学習の効果の評価】 【指標　「テイク支援実績」】 【根拠資料「難聴学生Ｔさんに対する授業配慮についてのお願い」】（前期、後期） 【根拠資料　場面緘黙学生Ｉさんに対する授業配慮についてのお願い】

		終了し、単位を取得することができた。今後もさらに多様な学生に対するきめ細かい支援内容について考えていく。	
	[1-4] 学科内で学生個別の修学状況や進路希望などについて情報を共有する。さらに，修学において支援を必要とする学生についても情報を共有するとともに関連機関との連携を図る。そして，学生状況の把握と情報共有として「はぐくみ」を活用する。卒業生及び進路先の聞き取りから、社会で発揮される学習効果の適切な把握に努める。	毎月の学科会議において 1 年生から 4 年生までの修学状況を報告しあい、面談などを通して進路状況を確認しながらこれらの情報を学科教員が共有した。経済的な理由などで学業に支障をきたしているケースが増えているが、これについても情報を共有しながら解決を模索している。「はぐくみ」に修学状況を挙げるだけでなく学科会議でも知恵を出し合い学業が続けられるよう粘り強く指導している。	対処を 3/3 実施。検証を 2/2 を実施。 達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D5-1:学生の成長過程と学修成果より検証・共有化】 【指標③】 【指標②進路決定状況】 【指標「卒業率・進級率推移表」】 【指標「コミュニケーション記録登録件数」】 【指標「こ発在学生の進路希望調査」】
2019 年度	年次計画内容		
	[1-1] こども発達学科がもとめる学生像や教育目標など学科のアドミッションポリシーを明示・周知し、入学後卒業までに必要な教育の内容と水準を各種媒体を通して受験生に熟知できるようにする。入学予定者には入学前学習を適宜課することによって学習意欲を維持できるようにする。		
	[1-2] 障害のある学生の受け入れに際しては、担任教員やアクセシビリティ推進委員会が必要な情報を共有し学科会議でも随時報告しながら修学に専念できるよう環境を整える。		
	[1-3] 修学において支援を要する学生に対しては、担任教員およびアクセシビリティ推進委員会、関係部署と連携しながら対処する。		
	[1-4] 学科内の全学生について修学状況を把握できるように、毎月の学科会議で情報交換を行う。修学状況や進路希望については適宜調査を実施し、成長過程や問題点を把握できるようにする。何らかの支援や注意を必要とする学生に関しては「はぐくみ」を活用して情報を共有し、適宜指導や支援を行う。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証し、再編方針を決定する。 [2-2] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。 [2-3] 検証した再編方針にもとづき、募集人員の適切性を検証し、確保しうる再編を検討する。			[2-1、2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2018 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 収容定員と在籍学生比率の適切性における課題を整理して、今後の改組に効果的に活用できるようにする。	前年度までの収容定員と在籍学生比率の適切性の検証に基づき、今後のさらなる改組をにらんだ議論に備えた。	対処を 2/2 実施。検証を 1/1 を実施。 達成 1/1 を実施。 【指標「計画表」D5-2:収容定員と在籍学生比率の適切性の検証】
	[2-2] 入学定員を回復する見通しをたて、充足のために効果的な取り組みに注力する。また、退学率は 3%未満を維持する。	4 年連続定員未充足への対応を検討した。具体的には、学科に関する各入試制度の定員配分を見直した。この他、広報入試課と緊密な連携で効果的な宣伝ができ、4 年ぶりの入学定員充足を達成した。退学率は 3%台であった。	対処を 2/2 実施。検証を 2/2 を実施。 達成 1/1 を実施。 【指標「計画表」D5-2:過剰・未充足に関する対応】 【指標①②】
	[2-3] 上記の分析に基づき、今後の改組に向けて、適切な募集人員を確保しうる新たな方策を創造する。	今年度の入試動向も参考にしつつ、再び各入試制度の定員配分を変更する検討を行い、その方向で実施することとなった。 入学定員確保に当たっては、教職志望者、保育士志望者双方に広くアプローチできる取り組みが効率的にできた。	対処を 1/1 実施。検証を 1/1 を実施。 達成 1/1 を実施。 【指標「計画表」D5-2:募集人員の適切性を検証】 【指標①②】
2019 年度	年次計画内容		
	[2-1] 収容定員と在籍学生比率の適切性における課題を整理して、今後の改組に効果的に活用できるようにする。		
	[2-2] 入学定員を継続して確保する見通しをたて、充足のために効果的な取り組みに注力する。		
	[2-3] 上記の分析に基づき、今後の改組に向けて、適切な募集人員を確保しうる新たな方策を創造する。		

（８）心理学部

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1] アドミッション・ポリシーを刊行物・ＨＰなどで公開する [1-2] アクセシビリティ委員会、バリアフリー委員会と連携し、障害を持つ学生の受け入れ態勢を整備する。 [1-3] 学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1,1-2 共通] 入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査
2018 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 前年度同様、アドミッション・ポリシーを HP に掲載したり、オープンキャンパスの際に説明したりすることを継続する。	HP にアドミッション･ポリシーを掲載し、オープンキャンパス、進学説明会等でも説明を行った。	学生満足度について､適切に評価する方法を検討する必要がある。【指標なし】
	[1-2] 前年度同様、アクセシビリティ推進委員会、バリアフリー委員会、学生相談室と連携し、配慮事項を徹底させる。	アクセシビリティ推進委員会、学生相談室を兼任する教員がいるため、連携が強まった。合理的配慮希望学生、保護者、学科教員とアクセシビリティ推進委員、学生相談室との合同面接も導入された。	連携については実施済みである。今後、関係部署による連携のケースをさらに積み上げ､より迅速で適切な合理的配慮を目指すことが求められる。【指標なし】
	[1-3] 新学部設置に伴い、新たに必要な評価尺度の吟味と、経時的な測	入学時に困りごと調査用紙を配布し、必要なケースについては担任が対応するようシ	本年度の取り組みに基づき､今後さらに適切な調査と評価の方法を検討していく。【指

	定・分析・振り返りを行う。	ステム化を試みている。また 2 年次にも同様の調査を行い、経時的に検討を加えていく。	標なし】 （第 14 回教授会 12/20　審議 9）
	[1-4]　公認心理師等を積極的にめざす学生を受け入れ、育成する方法を検討する。	本年度入学生には、公認心理師に関心の高い者も少なくなく、養成指定科目を積極的に履修する様子がみられる。さらに心理学検定等を利用した工夫を検討する必要がある。	HP で公認心理師を目指す受験生に関心を持ってもらえるよう工夫している。今後さらに講義や実習について適切な情報周知の工夫が求められる。【指標なし】
2019 年度	年次計画内容		
	[1-1]　アドミッションポリシーについて、オープンキャンパスや学校訪問、進学説明会等の際に説明したりすることを継続する。		
	[1-2]　アクセシビリティ推進委員会、バリアフリー委員会、学生相談室と引き続き連携し、配慮事項を徹底させる。		
	[1-3]　困りごと調査等を引き続き実施し、経時的に検討を続ける。		
	[1-4]　公認心理師等を積極的にめざす学生を受け入れ、育成する方法を引き続き検討する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2018 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。	心理学部としての定員 95 名に対し若干上回る入学者となり、比率は１.08 となった。	本年度は入学定員を充足し、収容定員充足率も高まった。【指標なし】
	[2-2] 引き続き、定員 95 名の充足に向けて、広報の充実を計る。昨年度に引き続き、学校教員向けの心理学講座を開催するほか、高校への教員向け出張講座も行うなどして、本学における教育力を対外的に広報する。	定員 95 名を確保でき、さらにそれを上回る入学者となった。今年度から開始したスカラシップ入学制度により 10 名、入試成績上位の成績優秀者枠でも 16 名を確保した。 引き続き、学校教員向けの心理学講座を１回、加えて一般市民向けの心理学講座を 1 回開催し、心理学部の開設およびその内容について広く周知することに努めた。 また、HP 上で心理学部のトピックを公開し、教育内容を広報した。進学説明会、高校訪問等においても、心理学部に対する高校生の関心は高まっていることが確認できた。	①2019 年度の心理学部臨床心理学科の入学定員充足率は 123.2%である。 ②人文学部臨床心理学科の収容定員充足率は 45.9%（３月末:卒業生を除く）である。 公認心理師制度が開始されマスコミで報道されるようになったため、社会的関心も高まりつつある。今後、高校教員等関係者の関心も高まると想定されるため、関係者に向けた広報をさらに充実させていく必要がある。【指標なし】(第 3 回教授会 5/24　審議 10)
2019 年度	年次計画内容		
	[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。		
	[2-2]　定員 95 名の厳格化に向けて、入試方法を検討する。学校教員向けの心理学講座や高校への教員向け出張講座において、本学における教育目的や方針を説明し、質の高い生徒の確保を目指す。		

（９）法学部

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　求める学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2]　学生の受け入れ方針が求める学生に成長しているのか検証する。 [1-3]　入試制度の区分に応じた学生の成長を把握し、入試制度の検討を行う。			[1-1] ①入試要項、履修要項での記載、ホームページでの公開実績 [1-2] ①入学年度別学位授与率・4 年間卒業率 ②進路決定状況 ③GPA 分布 ④資格等取得状況 ⑤法学検定試験ベーシックコースの合格状況 ⑥ボランティア活動への参加状況 [1-3] ①入学年度別学位授与率・4 年間卒業率 ②GPA 分布
2018 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　求める学生像、入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準を、入試要項、履修要項、ホームページなどで明示する。	[1-1]　入試要項、履修要項ともに学部の教育目標や各種ポリシーを明記している。全学ホームページの中の法学部の該当箇所で各種ポリシーを公開し、高校生にわかりやすく説明している。	入試要項、履修要項を参照。またフェイスブックにおいても、積極的に学部の情報を公開している。
	[1-2]　学生の受け入れ方針が求める学生に成長しているのかを、単位取得状況、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、進路決定状況、GPA 分布などの指標を通じて検証する。	[1-2]　引き続き法学検定ベーシックに多数の合格者を出すことにとどまらず、法学検定スタンダードにも二桁の合格者を出した。公務員試験の合格者に関しては、母数が少ない中で健闘した。また CUP の成果として、情報系の資格を取得する学生もおり、学生の成長を多角的に把握できる状況にある。	資格取得者表彰12名、法学検定ベーシック合格86名（3年生以上16名、2年生37名、1年生33名）、法学検定スタンダード合格12名、合格率70.59%、公務員合格者数9名（のべ人数、うち北海道道庁現役3名、北海道警察現役合格3名、道内市町村現役合格3名）

５．学生の受入れ

	[1-3]　入試制度の区分に応じた学生の成長を、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、GPA 分布を通じて把握し、入試制度の検証につなげる。なお入試制度と学生の成長との関係をより正確に把握するための仕組みづくりを検証し、場合によっては改善を行う。とりわけスカラー入試制度で入学してきた学生についてはトップアップの観点からサポートする態勢作りを行う。	[1-3]　入学者が少ないながら、公務員志望者や資格取得者、さらにはボランティア・地域貢献を目指す者など多様な学生が育まれている。入試制度とのさらなる連携を踏まえた、新しい仕組みづくりの検討を続けたい。	2018 年度の卒業対象者卒業率 84.9%、4 年間での卒業率 78.2%、前者は前年より 3%ダウン、後者は前年より 6.2%アップした。
2019 年度	年次計画内容		
	[1-1]　求める学生像、入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準を、入試要項、履修要項、ホームページなどで明示する。		
	[1-2]　学生の受け入れ方針が求める学生に成長しているのかを、単位取得状況、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、進路決定状況、GPA 分布などの指標を通じて検証する。		
	[1-3]　入試制度の区分に応じた学生の成長を、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、GPA 分布を通じて把握し、入試制度の検証につなげる。なお入試制度と学生の成長との関係をより正確に把握するための仕組みづくりを検証し、場合によっては改善を行う。とりわけスカラー入試制度で入学してきた学生についてはトップアップの観点からサポートする態勢作りを行う。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2018 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　在籍学生比率は、当該年度の収容定員および実際の入学者によって変動するため、適切な定員管理ができているかを検証する。	[2-1]　2014 年度入学生数を底にして入学者数は改善傾向にある（2015 年度 101 名、2016 年度 112 名、2017 年度 110 名、2018 年度 123 名）。高校生数の減少を考えると頑張っていると思うが、定員を充足するまでの回復は難しい状況にある。	2014 年度の充足率は 38%、2015 年度の充足率は 67%、2016 年度の充足率は 75%、2017 年度の充足率は 73%、2018 年度の定員充足率は 82%である。
	[2-2]　在籍学生数の過不足を検証・評価し、適切な定員数を検討する。	[2-2]　これまでの学部独自の広報活動によって、公務員試験に強い「札幌学院大学法学部」というブランド力が、ある程度、評価されてきたことは確かである。しかしながら公務員不人気や高校卒での公務員就職の傾向などによって、公務員志望の学生を頼りにしたポジショニング戦略だけでは、さらなる学生を獲得するのは難しい状況にある。そのため高校側に、教育の質をアピールできる模擬裁判や模擬選挙等の出張講義を積極的に行うなどしてきた。まだ一定の増減はあるが、長期的な傾向を判断することは難しく、定員数の削減案については、今後の検討課題としたい。	2018 年度入学者は、前年度の入学者数より若干増えたが、定員の 150 名に近づけることはできなかった。2019 年度入学者数は、3 月時点では 103 名を予想しており、入学定員充足率は 70%の見込みである。
2019 年度	年次計画内容		
	[2-1]　在籍学生比率は、当該年度の収容定員および実際の入学者によって変動するため、適切な定員管理ができているかを検証する。		
	[2-2]　在籍学生数の過不足を検証・評価し、適切な定員数を検討する。		

（１０）大学院法学研究科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2]　入学者選抜方法について、公平性・適切性等の観点から不断に検証する。			[1-1,]　①入学案内・ホームページでの公開 [1-2]　①単位修得状況 ②GPA 分布 ③資格等取得状況 ④学位授与率 ⑤修了生進路状況 ⑥検証作業の実施状況。（2019 年度新規）
2018 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　求める学生像及び入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準を示すアドミッション・ポリシーが適切であるか検討する。	[1-1]　求める学生像については、新たに改訂したアドミッション・ポリシーに示されている。入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準については、法学部以外から志望する受験生が多いことを考慮して、説明会等で法学の基礎、志望する専攻以外の法律について学部生レベルの修得が必要なことを説明した。	
	[1-2]　2017 年度に引き続き、入学者選抜方法について、公平性・適切性等の観点から検証する。	[1-2]　入学者選抜方法について公平性の観点から採点方法について一定の工夫を行った。	おおむね適切な入学者選抜ができている。
2019 年度	年次計画内容		
	[1-1] 学生の受け入れ方針を入学案内や公式サイト等に明示する。		
	[1-2] 指標に基づき、適切な受け入れ体制が確立しているか、検証する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を不断に検証する。（2019 年度削除） [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。（2019 年度削除） [2-1] データ（入学定員充足率や収容定員充足率等）に基づき総括を行い、適切な範囲に収めるための定員管理を強化する。（2019 年度新規）			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率 ③総括の実施状況。（2019 年度新規）
2018 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　2017 年度に引き続き、収容定員に対する在籍学生比率を適切な範囲に収めるよう努める。	[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率を適切な範囲に収めるように努めた。税法志望者が多い中、税法担当教員、税法関連非常勤講師等と協力し、合格者数をある程度確保した。まだ定員充足には満たないが、この定員は専任教員が 2 名体制の下で設定された人数である。今後、法学研究科への需要を適切に見通し、定員を維持していくのか、定員を引き下げるのかを、社会的な要請を考慮しつつ、運営会議及び研究科委員会などで検討していきたい。	①2018 年度入学定員充足率→60% ②2018 年度収容定員充足率→63%
	[2-2]　当面の法学研究科存続という状況、ならびに大学院再編後における税理士養成の維持発展の可能性を織り込み、現行定員の確保を確実なものとするため教員確保の手立てを具体的に提案する。	[2-2]　法学系単独学部としての存続の可能性もあり、さらに税法を中心とする法学研究科への社会的需要などを考慮し、現行の定員確保を確実なものとするための教員体制の確立を具体的に検討する。	
2019 年度	年次計画内容		
	[2-1] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する総括を行い、次年度に向けた対応を検討する。		

（１１）大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　一般入試ならびに社会人入試(一期、二期)、学内特別選抜入試の制度と内容について運営会議における検討を継続する。 [1-2]　受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。			[1-1,1-2 に共通] ①受験者数、合格者数リスト
2018 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　三回の入試の状況を把握し、検討を継続する。	計画に沿って遂行した。 学内特別選抜・一期・二期の各入試状況は研究科委員会で報告され、研究科運営委員会において、制度・方法・状況についての検討を継続した。	①　達成
	[1-2]　受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。	計画に沿って遂行した。	①　達成
2019 年度	年次計画内容		
	[1-1]　入試ワーキンググループを立ち上げ、入試の方法について、2022 年度入試に向けた大きな改定や、それまでに必要な小さな改定について議論する。		
	[1-2]　受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　入学定員に対して超過・不足に至らないように配慮する。 [2-2]　社会人の入学を促進するために必要な授業料減額について検討する。			[2-1] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率 [2-2] ①他研究科との授業料の対比
2018 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　入試の状況と、超過･不足の状況を把握する。	計画に沿って遂行した。 各入試実施後に研究科委員会において状況報告がなされた。なお 2018 年度最終合格者は 5 名とこれまでで最少となったが、一期･二期入試とも、筆記試験、二次の面接試験を通じて研究科教員全員の評価に基づく適正な判定結果であった。	①　実施 ②　実施
	[2-1]　他研究科との授業料の格差の説明を求める。	授業料の大幅減額を達成した	①　実施
2019 年度	年次計画内容		
	[2-1]　入試の状況と、超過･不足の状況を把握する。		
	[2-1]　授業料の大幅減額が達成でした。新たに当該年度から長期履修制度も開始したため、社会人を含め広く啓発していく。		

（１２）大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。	[1-1,1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-3]

５．学生の受入れ

[1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			①院生アンケート ②資格等取得状況
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　入試案内パンフレット、大学院の説明会等で求める大学院生像、習得しておくべき知識、研究できる内容などを明示するとともに、入学志願者に対して事前に書籍などを紹介する。	入試案内パンフレットに教育目標、アドミッション・ポリシーなどを記載した。また入学志願者に対して事前に読む書籍のリストも作成した。	
	[1-2]　修士論文の内容の検証、院生アンケートなどで受け入れた大学院生の成長の度合いを検証する。	修士論文等において院生がそれぞれのテーマを持って論文に取り組み、成長の跡が見られた。	①院生へのアンケートを行った。 ②リスク検定合格者がいる。
	[1-3]　「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」に沿って大学院生の受け入れを行う。	「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」に沿って大学院生を受け入れるが、実際に障がいを抱えた院生は在籍していない。	
2019年度	年次計画内容		
	[1-1] 入試案内パンフレット、大学院の説明会等で求める大学院生像、習得しておくべき知識、研究できる内容などを明示するとともに、入学志願者に対して事前に書籍などを紹介する。		
	[1-2] 修士論文の内容の検証、院生アンケートなどで受け入れた大学院生の成長の度合いを検証する。		
	[1-3] 「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」に沿って大学院生の受け入れを行う。		
	[1-4] 海外留学生の受入れを促進するための検討を開始する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員の見直しやカリキュラムの見直しの検討、広報活動を通じて定員に対する在籍学生数の未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2018年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　これまでの入学者数の動向を検証し、大学院再編時の収容定員を検討する。	2019 年度の入学者予定者は今年度と比較して倍増したが、4 名と依然として定員以下にとどまっている。大学院再編時に見直しには踏み込みたい。	①今年度の入学定員充足率は 13% ②今年度の収容定員充足率は 37%
	[2-2]　大学ホームページの利用、入試案内用パンフレットの修正、パンフレットの配布先の拡大を通じて大学院の志願者数の増加に努める。このほか ・OB・OG、同窓会の活用 ・札幌学院大学コミュニティ・カレッジ等での広報を行う。 ・地方自治体、企業、JC 等各種団体への PR ・税理士会等へ、法学研究科と合わせて PR を行う。	大学の広報戦略により大学院ホームページの改修を行っている。SEO 対策のため、大学院での外部講師講義等の情報を発信している。まちづくりの用語集を作る計画は、大学院のホームページと重なったため、2019 年度以降に持ち越しとなった。パンフレットについては低コストの簡易型リーフレットの作成を検討した。	
2019年度	年次計画内容		
	[2-1] これまでの入学者数の動向を検証し、大学院再編時の収容定員を検討する。		
	[2-2] 大学ホームページの利用、入試案内用パンフレットの修正、パンフレットの配布先の拡大を通じて大学院の志願者数の増加に努める。このほか ・OB・OG、同窓会の活用 ・札幌学院大学コミュニティ・カレッジ等での広報を行う。 ・地方自治体、企業、JC 等各種団体への PR ・税理士会等へ、法学研究科と合わせて PR を行う。 ・ターゲティング広告の可能性について検討する。		